

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

## 子供たちの成長をご覧ください

新型コロナウイルス感染防止のため、今年度前半はなかなか学校教育をご覧いただける機会をもてずにいました。二学期に入り、運動会を皮切りに可能なところから少しずつ保護者の皆様にも参加していただけるよう心掛けて参りました。2月には、今年度最後の授業参観が予定されております。新型コロナウイルス感染防止対策として、一学年ごと日を設定し、体育館を使つての参観としました。寒い時期ですが、コロナ対策と同時に防寒対策を十分にしておきたいと思つています。ぜひ、子供たちの成長した姿をご覧ください。なお、全国的に新型コロナウイルス感染者が増えています。参観の際には十分な距離を保つこと、不必要な会話をしないこと、当日の健康チェックを必ず行うことなどご協力いただきますが、ぜひご理解ください。



## 地区会議ありがとうございました

1月22日から28日にかけて、地区会議の開催ありがとうございました。来年度のPTA役員さんや登校班、通学路などについて話し合いを持っていただき、感謝申し上げます。来年度になつても、まだまだ例年通りとはいかないと思つていますが、取捨選択しながらできるところから少しずつ進めていきたいと考えております。学校教育は、保護者の皆様のご協力なしでは成り立ちません。都会ではPTA活動廃止論なども聞かれる地区もあるようですが、充実した教育活動の展開のためには、学校、家庭、地域の連携が必要だと考えております。ぜひ、今後の変わらぬご協力をお願い申し上げます。



## 第2回学校関係者評価委員会

1月18日(月)に職員自己評価、児童アンケート、保護者アンケートを基に第2回学校関係者評価委員会が開かれました。

〔今回ご意見をいただいた主な項目〕

- 担任と保護者との相談体制について
- 情報発信について(含 HP, 各種便り)
- 災害時の避難所の運営マニュアル, 自治会と学校との打ち合わせについて
- 教師の多忙化について
- 集金方法について



詳しい内容につきましては、後日HPに掲載いたします。アップしましたら、ぜひご覧ください。保護者アンケートへのご協力ありがとうございました。

## 自分の言葉で自分が傷つく

群馬県のみどり市東町というところに「富弘美術館」があります。ここには、星野富弘さんが描いた絵や詩がたくさん展示されています。このみどり市東町は、以前は勢多郡東村といい、星野富弘さんの故郷です。

星野さんは有名ですので、絵や詩がかかっているカレンダーなど誰でも目にしたことがあると思います。驚くことに、星野さんはこれらの作品を口にくわえた筆でかいています。星野さんは、大学を出て中学校の体育の先生になりました。体育の授業中、思いがけない事故に遭い、それから手も足も動かなくなってしまい、ずっとベッドの上で暮らすようになりました。そんな星野さんがかいた『くちなし』という詩です。



### くちなし

鏡に映る 顔を見ながら 思った  
もう 悪口を いうのは やめよう  
私の口から 出た ことばを  
いちばん近くで 聞くのは 私の耳なのだから

誰でも気に入らないことがあると、ついつい人の悪口を言ってしまうがちです。でも人の悪口を言うと、それを最初に聞くのは自分だということに改めて気づかされます。まるで、自分が言われているように感じられます。悪口で人を傷つけると、自分も傷つきます。だからこそ悪口は言わないでいたいものです。No.17でも書かせていただいたように、「チクチク言葉」ではなく、「ふわふわ言葉」をいつも心掛けたいですね。子供たちには一学期開始より三つの約束「命を大切にする行動をとる」「人の話をしっかり聞く」「人の嫌がることをしない」を呼び掛けています。人が傷つくことや人の嫌がることは必ず自分に返ってきます。



## ゼッケン67

今年東京オリンピックは無事開催されるのでしょうか？東京では1964年に一度行われています。この大会のマラソン競技で円谷幸吉選手が銅メダルを取りました。なお円谷選手は一万メートル走でも6位に入賞しています。この一万メートル走でのこと、アメリカの選手が優勝し、次々にゴールに選手が入ってきます。いよいよ最後のランナー、ゼッケン67セイロン（現スリランカ）のカルナナダ選手が…ところがこの選手はゴールを横切っても新たな周に入りました。トラックを一周してもまだ走り続けます。誰もいないトラックを、わき腹を抱えながら三周したのです。その姿に観客から大きな歓声と拍手が送られました。「頑張れセイロン」「頑張れカルナナダ」、最後まであきらめず走り続けたカルナナダ選手は、勝つことと同じくらい大切なことを教えてくれました。実はこの話、私の小学校時代の国語の教科書に書かれてあり、今でも私の脳裏に鮮明に残っているのです。

